



●仮設住宅アンケート  
申し入れ  
(3月23日)

第5回目となる仮設住宅アンケート調査の結果を、宮城県へ要望しました。今回は新たに「復興公営住宅」にお住まいの方への聞き取り調査も行い、新たな問題点も浮き彫りとなり、早期の支援を強く県に訴えました。



●環境・エネルギー政策調査  
特別委員会視察  
大分県宇佐市「拜田グリーンバイオ事業所」を視察



●南蒲生浄化センター視察



●鶴が丘2丁目 安全対策(1月25日)  
鶴が丘2丁目・松森小学校通学路に安全対策の為、ポストコーンを設置致しました。



●泉中央2丁目 河川整備  
(2月10日)  
高柳2号橋下、高柳川に集まった流木を撤去。

# 佐藤ゆきお 市議会通信.....③

2016年4月発行

発行元/  
仙台市議会公明党市議員団  
仙台市議会議員 佐藤 幸雄  
仙台市泉区南光台1-56-15-1  
TEL 022-272-4863  
Email yukio@sendai-komei.jp  
HP <http://sato-yukio.jp/>

SATO YUKIO SHIGIKAI TUSHIN 【泉区】IZUMI-KU

一人の声を市政に  
つなぎます。

VOL.3



## 皆様の「声」を実現するため 「安心・安全」な街づくり推進に全力!

日頃より様々な「声」を頂き、そして温かなご支援を賜りまして心より御礼申し上げます。

平成28年第1回定例会(2月10日～3月14日)が開催されました。今回の定例会で3回目の本議会を経験させて頂き、質疑・質問等の中から少しずつではございますが実績も勝ち取らせて頂くことが出来ました。今定例会におきましても、当会派菊地団長より、東日本大震災より5年がたちますが「最後のお一人が生活再建、そして心の復興を成し遂げるまで復興は終わらない」との思いを再度、奥山市長へ訴えて参りました。これからも最後のお一人まで寄り添った復興の取り組みを進めて参ります。

また地域の皆様より頂きました安心・安全の取り組みへの「声」を実現するため、現場調査の実施を本市部局へ推進して参りました。議員として活動させて頂いてより8ヶ月となりますが、一瞬で時が過ぎ去った速さを実感しております。これからも皆様の「声」にお応えできる議員に一日も早く成長したいと、まさに無我夢中で日々の活動に取り組んでおります。これからも、何事にも全力で対応し、さらに「安心・安全」な街づくりを推進して参る決意です。

仙台市議会議員 佐藤 幸雄



●プロフィール  
昭和43年7月25日、仙台市生まれ。  
昭和62年 仙台商業高等学校卒業  
(硬式野球部OB)  
平成4年1月 新日軽株式会社入社  
(現・株式会社 LIXIL)  
平成27年4月25日 退社  
平成27年8月2日 仙台市議初当選。  
妻・娘と3人暮らし。  
趣味:スポーツ観戦。  
好きな言葉:努力  
所属委員会/  
市民教育委員会、環境・エネルギー  
政策調査特別委員会、広報委員会  
党役職/  
公明党宮城県本部青年局長、  
泉第2支部支部長、  
企業団体対策副委員長、  
広報企画局長

<http://sato-yukio.jp/>

SATO YUKIO  
SHIGIKAI TUSHIN  
VOL.3 2016.4



## 第1回定例会 予算等審査特別委員会

平成28年3月

# 「窓断熱工事」補助制度を広くアピール、 低炭素都市づくりの最先端・仙台市を構築せよ!

## 1. 低炭素都市づくり推進の取り組みについて(環境費)

【佐藤幸雄議員】昨年本会議で質問した「一般住宅のCO<sub>2</sub>排出削減」について、当局より「本市の温室効果ガス排出量は、家庭部門が全体の約2割を占めており、全国平均に比べ、高い水準にある。温室効果ガス排出量削減のためには、住まいへの対策が重要である」との答弁を頂いた。また、昨年の決算等審査特別委員会でも提案をさせて頂いた「窓断熱」の項目が、平成28年度予算に盛り込まれた。

改めて「窓断熱の効果」をどのように試算しているのかを問う。

【環境企画課長】温室効果ガス排出削減の効果を、国の公表データ等を用いて試算すると、一般家庭の断熱工事1件あたり最大で年間約0.5t-CO<sub>2</sub>の削減効果が見込まれる。また、光熱費の削減効果については、独自の試算は困難だが、窓ガラス製品を扱う販売メーカーが戸建住宅について一定の条件のもと試算したところ、効果の高い窓断熱施工による場合、年間約2万4千円の冷暖房費削減効果があるとされている。

【佐藤幸雄議員】現在、使用している単板ガラスサッシでは夏の場合、熱(エネルギー)は開口部(窓)から73%出入りすると言われている。「窓断熱工事」をする事で、冬の暖房そして夏の冷房費、大いに効果を発揮する取り組みと評価をする所である。

今回の事業予算では、申し込み見込み件数は「100件CO<sub>2</sub>削減効果 50t」と記載されている。

本市としても地球温暖化対策のCO<sub>2</sub>削減が推進でき、

設置されたご家庭も年間光熱費が2万4千円お得になり、しかも、地元中小企業の皆様へ対しての経済効果、経済の底上げにも寄与できる取り組みとなることから、この取り組みについてももう少し予算を増やしてはと思うがどうか。

【環境企画課長】窓断熱工事に対する助成は、新たな取り組みという事でもあるので、まずは現在の制度を有効に活用するとともに、「窓断熱」の効果について、広く周知・啓発を図りながら、建築物の断熱性向上に関する取り組みが広がっていくよう継続的に努めて参りたい。

【佐藤幸雄議員】今回の「窓断熱」補助の周知について。過去、国、県としても同様の補助制度を行った際、市民の皆さまから「知らなかった、知っていれば申し込んだのに」との話を伺った事がある。本市として多くの方へ周知すべきと考えるが、どのような取り組みをなされるのか。

【環境企画課長】市政だよりや市ホームページなどにより制度内容や申請受付の広報を行う他、本市や関係団体のイベントその他様々な場面を通じて情報発信に努めて参る。さらに、事業者の皆様を対象とした各種説明会などの機会を捉えながら、施工業者に対する周知にも努めていく。

【佐藤幸雄議員】今回の取り組みも含め、「低炭素先進の取り組みの最先端 仙台市」と他都市より目標にされる結果を出される事に期待するがどうか。

【環境局長】いわゆる低炭素化に関わる取り組みは、省エネルギーあるいは省資源をはじめ、現在の私ども

の暮らしぶりや事業活動等に対する大きな見直しを迫るものであり、市民や事業者の皆様の幅広いご理解と具体的な行動こそが、その推進力になるものと考えている。

新年度においては、新たな補助制度、あるいは本市自らの率先行動など各般の施策を講じ、力を尽くして参る所存である。

## 2. 復興公営住宅 孤立解消について(土木費)

【佐藤幸雄議員】2月15日、「支えあう地域づくり研修会」に参加した。そこで、仙台白百合女子大学人間学部教授の大阪純先生の講演があり、地域での「つながり」の重要性にふれ、「高齢者の方は、「誰かのために役に立っている」事で健康長寿に生きられる。また毎日「目的があれば生きがいを感じ健康長寿につながる」とのお話があった。

更に特筆すべきは、東京23区の調査データによれば、男性は女性に比べ、孤立死が2倍とのデータを示され、対策が急務であると指摘されていた。そして「一人ひとりをつなげるための活動を行政と一緒に地域で進めて行きたい」と講演されていた。

この事業に孤立問題解消の大きな「鍵」があると思うがどうか。

【まちづくり政策局長】復興公営住宅にお住いの、特に単身高齢者の方の孤立解消については、地域による見守り活動なども重要だが、同時に、入居されている方ご自身が生きがいをもって地域活動に取り組んでいただくことや、互いに繋がりを感じながら支え合うと言ったことも大切であると認識している。

そのため、そのきっかけづくりとして地域の方々にも協力を頂きながら、茶話会や調理教室などを催し、また区の健康講座などを開催することで、入居者お一人おひとりが交流を深め、安心していきいきと生活を送ることが出来るようさらに支援に努めていく。

## 3. 水道施設の更新・維持管理について(水道事業費)

【佐藤幸雄議員】昨年11月、横浜市にて委託されている川井浄水場「セラロッカ」を視察した。当施設は、平成26年4月1日に運転を開始し、日本で初めて浄水場

施設全体の更新と運営・管理をPFI方式(公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法)で実施している。今後、仙台市でも民間の力を活用し、このような取り組みをされてはと思うがどうか。

【企画財務課長】水道局では、これまでも給水装置関連業務や料金収納業務の委託化など、個別の事業については、民間活力を有効に活用し、経営の効率化を図ってきたところである。

お尋ねの浄水場単位での運営・管理も含めたPFI方式の採用については、災害時における迅速な対応や職員の技術継承といった様々な課題はあるが、厳しい経営環境が見込まれる中、水道施設の更新を効率的に実施するための一つの手法として検討する必要があると認識している。今後、横浜市も含めた先進都市の事例や国の動向も見極めながら、本市の実情に合った整備手法を検討して参りたい。

【佐藤幸雄議員】国見浄水場の視察の際、水を試飲し「おいしいですね」とお伝えすると担当の課長さんは「仙台市の水が一番おいしいのです」と笑顔でお答えされていた。

現在当たり前前に利用している、この「おいしい水」を次の世代にも継続するためにも、安全・安心は当然確保しながら、その上でコストを抑え活用できる民間の力を頂きながら進めるべきと考えるがどうか。

【水道事業管理者】安全で安心なおいしい水を安定的に提供することは、水道事業者の最も重要な使命である。水道局では、これまでも24時間の修繕受付センターの設置など、お客様サービスの向上などにも力を注いできた。この24時間の修繕受付サービスは、民間との協力でなしえたものである。今後についても、施設更新需要の増大が見込まれる中、引き続き建設コストの縮減に努めるとともに、他都市の事例を参考としながら、民間活力の導入について幅広く検討するなど、更なる経営の効率化を図り、将来にわたって安定した持続的な事業運営に取り組んで参りたい。